

---

〈指導者の皆さまへ〉

**ピアノ・エレクトーン演奏グレード  
10～6級受験要項  
補足資料**

2019年2月15日版

---

この資料は、生徒がグレードを受験する際に指導者の皆さまに知っておいていただきたいことをまとめた補足資料です。受験要項と合わせてご確認ください。

# 目次

I. グレードを受験させる際のポイント	3
II. 受験要項の内容について	4
①Bコースの学習範囲「和音」について	4
和音記号とは？	4
ドッペルドミナントとは？	5
和音の基本形とは？	6
和音の転回形とは？	7
②Bコース10～8級の試験項目「伴奏づけ」について	8
伴奏する時の高さ（位置）	8
色々な伴奏形	8
③Bコース7・6級「即興演奏」について	9
「曲全体を変奏する」とは？	9

# I. グレードを受験させる際のポイント

生徒にとってグレード受験はとても大切な経験です。グレードが役立つものになるよう、以下のポイントを参考にご準備ください。

## <事前の準備>

### ① 受験要項の確認

グレード試験の内容は、必ず最新の受験要項で確認しましょう。特に、「出題範囲」や「課題例」には注意して、どんな試験内容なのかを確認してください。受験要項はヤマハ音楽振興会グレードウェブサイトに掲載しています。

### ② 受験にあたっての準備

試験では二人の経験豊かな試験官に演奏を聴いてもらい、アドバイスをもらいます。力が発揮できるよう、生徒と一緒に準備を行いましょう。試験の前には、実際の試験のように「試験項目を通して演奏する練習」をしておくといいですね。

## <試験までに生徒と確認すること>

### ① 演奏する曲の楽譜について

楽譜を見ないで演奏する場合でも、演奏する曲の楽譜はすべて持って試験室に入るよう、生徒に伝えましょう。試験官が楽譜を見ながら説明やアドバイスを行う場合があります。

### ② 試験当日の心がまえ

試験なので生徒が緊張するのは当然ですが、試験官は受験者の成長のきっかけとなるよう温かい気持ちで聴いてくれています。落ち着いて自信を持って演奏するよう、生徒に伝えましょう。

試験の最後には、試験官の先生からのお話（講評）があります。今後の勉強の参考になりますので、よく聴くよう伝えましょう。

## <試験後>

試験の結果通知が届きます。結果通知には、合格、不合格の判定と共に、「育まれている力」と「今後の学習のポイント」が書かれています。今後の指導のヒントにするため、生徒とよく確認しましょう。

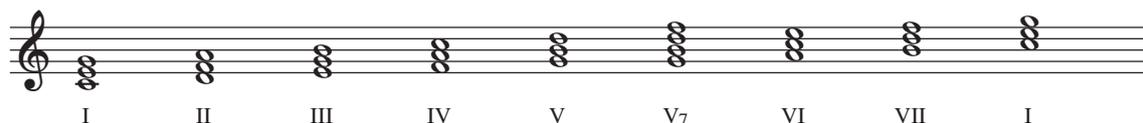
## Ⅱ. 受験要項の内容について

受験要項の内容について、ご質問が多い事項をまとめました。ご参考ください。

### ① Bコースの出題範囲「和音」について

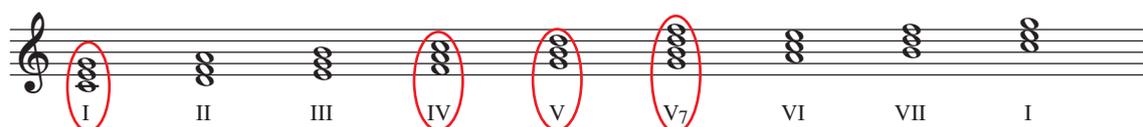
#### ◆和音記号とは？

Bコースの出題範囲「調と和音」では、和音は和音記号で書かれています。和音記号は、ハ長調を例にすると次のようになります。

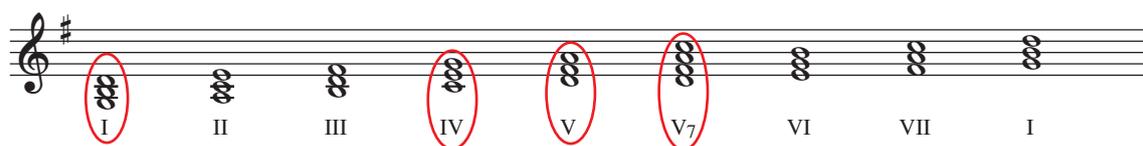


#### 例：9級の出題範囲の和音

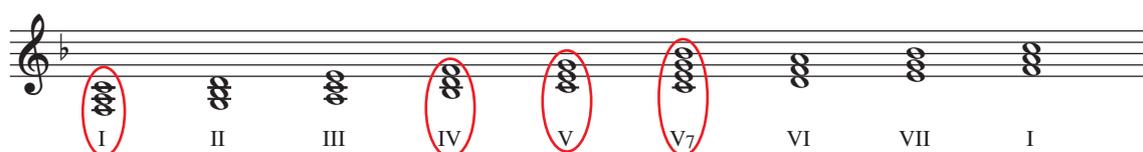
- ・ハ長調の「I, IV, V, V<sub>7</sub>」



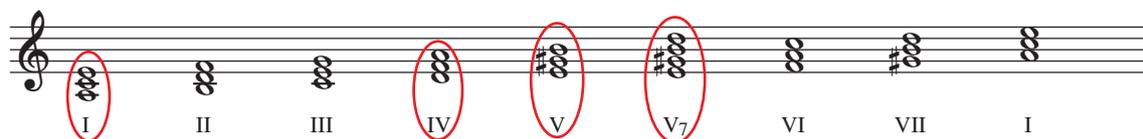
- ・ト長調の「I, IV, V, V<sub>7</sub>」



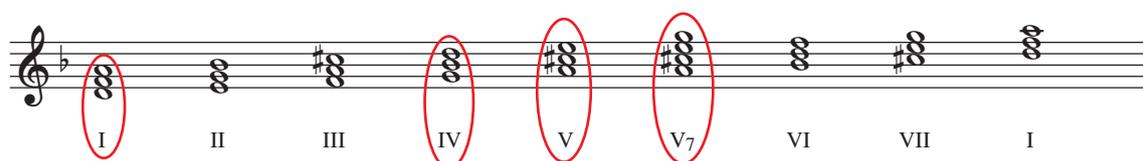
- ・ヘ長調の「I, IV, V, V<sub>7</sub>」



- ・イ短調の「I, IV, V, V<sub>7</sub>」



- ・ニ短調の「I, IV, V, V<sub>7</sub>」

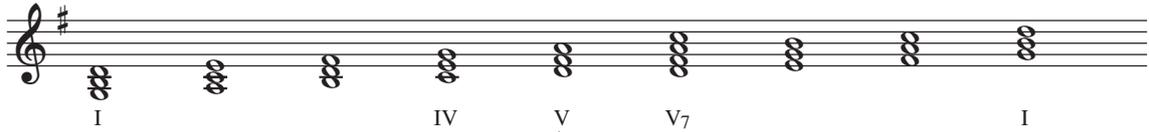


◆ドッペルドミナントとは？

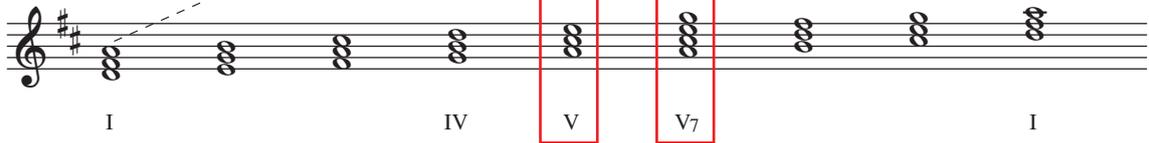
6級の和音の範囲には「 $\check{V}_{(7)}$  (ドッペルドミナント)」があります。「ドッペルドミナント」とは「5度調 (属調) の  $V_{(7)}$ 」という意味です。ト長調を例に見てみましょう。

$$\check{V}_{(7)} \left. \begin{array}{l} \text{5度調 (属調) の} \\ \text{V}_{(7)} \end{array} \right\}$$

[ト長調]



[二長調]



ト長調で考えると、5度上の二長調の  $V_{(7)}$  の和音が、「ドッペルドミナント」となります。他の調でも見てみましょう。

・二長調

・ヘ長調

・変口長調

・ホ短調

・ト短調

◆和音の基本形とは？

和音を作っている一つ一つの音を次のように呼びます。



バス（ベース）の音が「根音」である和音を「基本形」といいます。

10級Bコース「ハーモニー聴奏」の課題例を見てみましょう。

**ハーモニー聴奏**（ピアノ、受験要項 P.34）

【課題例】 八長調

**ハーモニー聴奏**（エレクトーン、受験要項 P.58）

【課題例】 へ長調

## ◆和音の転回形とは？

バス（ベース）の音が根音以外の和音構成音である場合、「転回形」といいます。バス音によって、第1転回形、第2転回形などと呼ばれます。例えば8級Bコースでは、伴奏づけに「II<sup>1</sup>（IIの第1転回形）」や「I<sup>2</sup>（Iの第2転回形）」が、ハーモニー聴奏に「I<sup>2</sup>（Iの第2転回形）」が出題範囲となっています。二短調を例に見てみましょう。

二短調の和音

基本形 [基]    転回形 [1転]    転回形 [2転]

基本形 [基]    [1転]    [2転]

※第1転回形はI<sub>6</sub>（Iの六）という言い方・表記のしかたもあります

※第2転回形はI<sub>4</sub><sup>しく</sup>（Iの四六）という言い方・表記のしかたもあります

7・6級Bコースでは、基本形だけでなく「適宜転回形を用いましょう」と書かれています。

基本形・転回形の響きの違いをよく聴きながら練習するよう指導しましょう。

また、終止形I<sup>2</sup>-V<sub>7</sub>についてはパターンとして定着するように指導してください。

### 注意！基本形と右手の和音について

「基本形の和音」は、上の声部の配置にかかわらず、バス（ベース）の音が根音であれば常に基本形となります。例えばハ長調の場合、右手の和音が「ドミソ」でも「ミソド」でもバス（ベース）が根音の「ド」であれば、その和音は基本形となります。転回形と混同される場合があるので、注意してください。

上声部の配置は様々

ベースが根音なので、いずれも「基本形」です。転回形ではありません。

② Bコース10～8級の試験項目「伴奏づけ」について

◆伴奏する時の高さ(位置)

和音づけ(伴奏づけ)では、伴奏の音域はメロディーに合った適切な高さ(位置)を選びます。

試験問題の楽譜にはヒントが隠されています。ピアノBコース8級の課題例を見てみましょう。

(ピアノ、受験要項 P.26)

Moderato

音部記号がヒントです

下の実施例は、比較的高い音域のメロディーに対して、かぶることのない中音域での和音を選んでいます。

Moderato

メロディーに合う伴奏の音域はどこかな?と意識し、選べるようになっていきましょう。

◆色々な伴奏形

伴奏形が変わると、曲の雰囲気は全く変わります。いつも同じ伴奏形ではなく、色々な伴奏形を弾けるようにしておくと、7・6級の「即興演奏」にも役立ちます。

例)

### ③ Bコース7・6級「即興演奏」について

#### ◆「曲全体を変奏する」とは？

7・6級では、メロディーに合う伴奏を弾いた後、曲全体を変奏します。エレクトーンBコース7級の課題例を見てみましょう。

#### 【課題例】（エレクトーン、受験要項 P.50）

A musical score for an exercise. It consists of three staves. The top staff is in treble clef with a key signature of one flat (Bb) and a common time signature (C). It contains a melody of quarter notes: G4, A4, Bb4, C5, Bb4, A4, G4. The second and third staves are in bass clef with the same key signature and time signature, and they are currently empty.

<メロディーにあう伴奏をつけると…>

A musical score for an exercise, labeled "Allegretto". It consists of three staves. The top staff is in treble clef with a key signature of one flat (Bb) and a common time signature (C). It contains a melody of quarter notes: G4, A4, Bb4, C5, Bb4, A4, G4. The second staff is in bass clef with the same key signature and time signature, and it contains a simple accompaniment of chords: G4, A4, Bb4, C5, Bb4, A4, G4. The third staff is in bass clef with the same key signature and time signature, and it contains a simple accompaniment of quarter notes: G4, A4, Bb4, C5, Bb4, A4, G4. The word "受験者" (Candidate) is written vertically on the left side of the score.

<曲全体を変奏すると…>

A musical score for an exercise, labeled "Allegretto". It consists of three staves. The top staff is in treble clef with a key signature of one flat (Bb) and a common time signature (C). It contains a melody of quarter notes: G4, A4, Bb4, C5, Bb4, A4, G4. The second staff is in bass clef with the same key signature and time signature, and it contains a simple accompaniment of chords: G4, A4, Bb4, C5, Bb4, A4, G4. The third staff is in bass clef with the same key signature and time signature, and it contains a simple accompaniment of quarter notes: G4, A4, Bb4, C5, Bb4, A4, G4. The word "受験者" (Candidate) is written vertically on the left side of the score. Red boxes highlight changes in rhythm and articulation in the melody and accompaniment. The text "メロディーのリズム、アーティキュレーションが変わっています" (The rhythm and articulation of the melody are changing) is written above the score, and "伴奏の形が変わっています" (The shape of the accompaniment is changing) is written below the score.

曲の雰囲気、テンポ等それぞれの曲に合う変奏ができるように指導しましょう。

本要項の全部または一部を権利者に無断で複製(コピー)することは、著作権の侵害にあたり、著作権法により罰せられます。  
個人的な範囲を超える使用目的での複製はなさないようお願いいたします。